

アマダイ通信NO. 79

(Tile fish network letter)

2010年紫陽花咲く

知人・友人各位

衆議院選で大勝した民主党鳩山政権が崩壊。選挙で国民は政策よりも先ず金権腐敗、利益誘導、官僚任せの自民党政治からの転換を望んだ。政治は最後は数で、数握らぬと政策を実現できないが、数のため手を組んだ小沢一郎の金権・利益誘導政治の影響をどこまで削ぎ、政策を再点検、参議院選で国民の支持を得られるか？同世代の菅総理と仙谷官房長官は力合わせ指導力を発揮、官僚を使いこなし、長期低落の日本の流れを変えて欲しい。

◎逝き遅れると、誰も旅立ちを見送ってくれない！？

先日、大学と学生運動の先輩の豊浦清さんが癌で亡くなり、自宅近くの代々木八幡のお寺での通夜に参列する。お浄めの後、近くの蕎麦屋に場所を替えて二次会。豊浦さんはML派（社会主義学生同盟マルクスレーニン主義派）の指導者として活躍した。東大闘争で安田講堂防衛隊長を務め、刑務所に服役、諏訪市民病院院長として地域医療で功績を残した今井澄先輩が社民党と民主党の参議院議員として国政で活躍した時は、その秘書として活動を支えた。経歴柄、労組、国会、官界、更に他大学、他党派の学生運動仲間も含め、多数参加、お陰で滅多に会わなくなったかつての仲間とも旧交を暖めることができた。

寂しがり屋で群れるのが好きな🐟としては、多くの仲間を集って貰い、盛大に黄泉の世界（があるとして？）への旅立ちを見送って頂くと共に、沢山の方々の出会いと交流の場を作り、最期のご奉公としたいとも思う。明大の先輩が、俺たちはベトナムで大量に撒かれて発ガン、奇形児の原因となった枯葉剤と同じ成分の催涙弾を大量に浴びたので、長生きできないと語る。80歳までの住宅ローンを背負う羽目になった🐟だが、無事ローンを完済できたとして、見送ってくれる仲間がいるか？心配だ。

喉頭がんの放射線治療中で危ない瀬戸際だったと思うのだが、真っ赤に皮膚が焼けた首をコルセットで支える痛々しい姿で今井さんの法事に出席していた、一時ヤクザの組長に転職した？型破れな明大の仲間も、コルセットが外れ元気に参加。🐟と同じ時期に大腸癌を手術、他臓器に転移はないが酒を断っていた東大の仲間が、肺に転移して手術したと言ってビールに口をつけている。🐟のように全く気にせずガンガン酒を飲むのも問題だが、あれも駄目、こうしなくちゃと、それ自身がストレスとなる禁忌や当為を作り過ぎて、癌に振り回されたり、癌と闘うことが生活となるのは如何なものか？

禁忌にも当為にも無頓着な🐟、5月の連休の頭、越後湯沢の温泉に泊まり、今年も奥只見丸山でシーズン9回目、最後のスキーに挑戦。生憎雨が降り出すが、リフトを三本乗り継ぎ山頂へ。雨がひどく一回滑り降りただけで着替えるが、お昼食べ出したら雨が止む。帰る道中、桜が綺麗で、花を見ようと高速を湯沢で降りると丁度桜祭。タコ焼き食べてお祭り気分を味わい、魚野川の堤防で花を愛でる。関越道の長いトンネルを抜けると快晴で、空の青に桜が更に映える。術後も生きて何度も花を楽しむ幸せ。人間、如何に生きるかは如何に死ぬかと同義。人間が社会的存在であり、類的存在であれば、生かされて最期まで社会に、他人の役に立って、出会いの場をつくり、見送られて逝きたい。

◎白神の水を売る・・・心はいつも故郷に！

3月末、秋田の藤里町の第三セクターから白神山地の天然水 500mm 瓶二函、48本が突然事務所に送られてくる。1年ほど前、能代高校同級生の中田潤秋田県議に頼まれ、故郷の天然水を JR 東日本に売り込むのを手伝い、本社の事業創造本部につないだことを思い出す。谷川岳の天然水の売れ行きがよく、水量が不足、新しい水源を探していた JR 東日本のニーズとマッチ、縁結びが成功、愛でたくゴールインしたという訳だ。

3月23日から秋田新幹線こまちと JR 東日本の各駅で発売、これまでの年間 160万本の生産量に3百万本上乘せされ、一直体制でフル生産になるようだ。ボランティアだが、故郷のため役に立てて嬉しいと、早速新宿駅のキオスクで求めるが、売っていない。千葉駅ビルの建替営業でステーション開発の常務に会い白神山水も PR するが、社員の試飲用に注文取っていたけど、干場さんが売込んだんですか！と常務。これからかと少し気落ちするが、こまちに乗った知人が、「3月23日から秋田新幹線こまち限定、1本140円！」という車内販売のチラシを持って来てくれる。能代高校東京同窓会のメンバーにもメールで紹介すると、さっそく大宮の駅で飲んだよ！美味しかったよ！という声が寄せられる。

ようやく金型の作り直し、製品製造の目途がついたベンチャービジネス、ウッドプラスチックパレットと同じで、水工場は装置産業。一交代から二交代、更に三交代で操業できれば、雇用を増やし、利益も上がる。周りを海に囲まれ、雨が多く、水資源に恵まれた日本では、水の有難味を感じる機会が少ない。だが中国を筆頭に、外国に出た途端、その有難味を痛感する。白神の水の美味しさについては JR が十分に吟味、折り紙つきになった訳だし、海外も含め新しい「水商売」にも精を出し、故郷に更に貢献できればと思う。

◎インド紀行・・・アンベードカル発見、ムンバイ 8 日間の旅

5月1日、いつもの様に朝荷造りして、12時発のインド航空機に搭乗。HIS に確かめたら、一人旅ということで、飲み友達なしは寂しい。前日二冊目の印度本「アンベードカルの生涯」を読了。久振り、二度目のインド訪問はボンベイ出身の不可触民にして法・経済学者、不可触民解放の闘士、独立時の法務大臣で憲法起草者、晩年にヒンズー教を捨て仏教に改宗した巨人、アンベードカル発見の旅になる。一人旅は好都合だ。

(1) 黄土色の海を世界遺産エレファンタ島へ！

時差 3 時間半のムンバイに、現地時間 9 時過ぎ着。機内の昼食前にハイネケン一本飲んだ切りで、その後二度の食事ではアルコールが出ない。デリーまで満席の二階建ジャンボ機もムンバイまでの客はまばら。十数年積ん読のノンフィクション「女盗賊プーラン」上巻を読み始める。HIS のスタンダードクラスのインドのホテルはシャワーしかないと言われていたが、小振りながらバスタブがある。気温 30 度超のムンバイでかいた汗を流し、持参したさきいかと紙パックの純米吟醸酒を眠りの友とする

昨年テロリストの襲撃事件があったタージマハールホテル前のインド門から渡船に乗る。広いボンベイ湾に大小無数の船が浮かび、海からの襲撃に備えオレンジ色のテロ対策船が沢山錨を下ろし、石油掘削リグまで聳える。黄土色の海面を小一時間走りエレファンタ島へ。暑いからかパンダ模様の山羊が顎を前足に乗せベンチの上でへたり、水牛も潮の引いた岸で泥に浮くボロ船の陰で休む。マングローブの幼木の間で綺麗な鳥が餌を啄ばむ。

景勝の地ならとザックに海パンを忍ばせるが、水の色は変わらず、海の子となるのを諦める。棧橋のミニ列車に我先に殺到、ぶら下がるように乗るのはインド流か？

(2) ガンジーとアンベードカル、神の子（ハリジャン）と海の子

エレファンタ島で、6～8世紀の作とされるヒンズー教石窟寺院の世界遺産壁画彫刻へ。中国山西省大同市の雲崗の石窟ほどのスケールはないが、三方開口で見易い。シバ神が主役の神々も、美しく今に生きる。ボンベイ滞在時の住まいだったガンジー記念館へ。国父の一生を写真と人形で辿る。国民会議派率いるガンジーの好敵手だったアンベードカルにも会おう。ボンベイには彼の足跡がある筈。不可触民に生まれ、差別され、辱められながら才能を現し、ボンベイ大学、更に米英で教育と研究の機会を得たアンベードカル。自分一人が貧困と隷属から脱出する踏台としてその機会を利用するのではなく、不可触民全体が差別から救われ、平等で豊かなインドを作る。インド全体を救おうと命をかける。

官僚養成学校の東大法学部に入ってしまう、遅まきながら資本主義社会が階級社会であることに気づき、自分一人、暗くて深い階級の川を飛び越え、対岸に渡るのではなく、川自体を埋めよう。皆一緒に豊かになろう！と、学生運動に走った若き日の自分とダブる。ヒンズー世界で奴隷として差別される不可触民を人間として扱うべき、差別される限り不可触民に属すべき国はないとも主張するアンベードカル。多数派カーストヒンズーを束ね独立を図るガンジーは、不可触民をハリジャン（神の子）と呼び、形ばかりの平等を言うだけだと厳しくガンジーと対立。独立時に会議派と連立、法相として憲法を起草しながら、仏陀に世直しの解を求め、ヒンズーを捨て仏教に改宗、仏陀の国に仏教を復興させた。

アンベードカルのもニュメントの所在をガイドに調べて貰い、タクシーを走らせる。海辺にドーム型の仏教寺院があり、ホールの真中にアンベードカルが祭られ、参拝の列ができていく。印度仏教の中心だ。無神論者だが、革命家アンベードカルの前に膝まづき合掌。

海辺に出ると人影はあるが黄土色の波が打寄せる。泳げないと思い海パンを持たずに来たが、波と戯れる子等。いいか！厚地のカラーパンツ一枚で波に逆らい一人沖へ。乾期で水量少ないラオスのメコン川で泳いだ時と違い、大腸がんの古傷も傷まず。着物を預り証拠写真を撮ってくれたガイドは、印度の子は泳ぎを教わらないと言う。

(3) 相変わらずのインフラ、日本に手助けの機会

翌3日6時10分発特急でムンバイ東350キロ、アジャンターとエローラ、二大世界遺産の観光拠点アウランガバードへ。1時間近く前に駅に着く。大きな駅は人で溢れ、時間潰すカフェも見当たらない。トイレに行くが5つのブースに4、5人ずつ並び、早く出ろ！とドアを叩く。列車ですると秤にかけ、用を足す。チップに10ルピー（1ルピー2・5円）札を出すと硬貨が戻る。ホームに無事帰ると列車は既に入線、心配していたとガイド。

普通車（3等）は溢れんばかりの満員御礼。ギューギュー詰めだ。エアコン付き二等車も次駅で満席。針金で縛った座席の手摺りは直ぐズレ、折畳みテーブルも勝手に倒れ、座席は進行方向と逆向き、トイレは黄害垂れ流し。朝は列車でビュッフェと聞き、ホテルの変な弁当よりいいと喜ぶが、調理車で煮炊きしたての軽食。ホテルで湯を沸かしてつくったポット入りインスタント味噌汁で食べ終わると、ようやくインド流のミルク紅茶、チャイが配られる。配るちょび髭の小父さんは公務員で、結構いい給料貰うのだと、ガイド。

350 キロを 7 時間余、時速 50 キロ以下と 10 年前と変わらず。印度エアも二階建ジャンボと図体はでかいがメンテナンスが悪く、折畳みテーブルが片チンバ、床のカーペットが捲れ、ドアが開かぬトイレもあった。経済発展著しい BRICS の一角と、中印並び称せられるが、インフラの充実度では中国の足元にも及ばない。高速道路も然り。片側一車線を牛車もトラクターもバイタクも走り、牛や山羊も横切る。電力不足で時々停電、汚れた川は悪臭を放ち、生水は飲めない。優れた技術とサービスで日本が手伝う機会が多い。

勢いが衰えたとは言え、一人当たり GDP は中国やインドの十倍以上、清潔快適、便利で豊かな生活を享受する日本。発展途上国の国民も同じように豊かな生活を求めるのは当然だ。その実現に手を貸す必要がある。中印が遅れた技術で資源を浪費、公害を垂れ流して経済の量的拡大を続ければ、地球の破綻は眼に見えている。日本の優れた省資源、省エネルギーの技術と社会システムを世界、とりわけ中国と印度の二国に提供、共に繁栄する必要がある。

(4) 無知は貧困と同じくらい残酷

アウランガバード観光の初めはビービー・カ・マクバラ。1678 年にアウラングゼーブ帝（この町の名の由来）の息アザム・シャーが母を偲び建てた廟。タージマハールの模造というが十分立派で美しい。一時ムガル帝国の都だったからか黒いグルカに身を包む回教徒の女が多い。ビール一本で酔って寝込み、早く目覚めてシャワーを浴びるが湯が出ない。水で汗と埃を流す。ガイド通じクレームを入れお湯を出して貰うが、暑い国に住むインド人は、誰もお湯のシャワーを求めないとのこと。本を読みながら湯を沸かして味噌汁を作り、ミニカップ麺でカレーに疲れたお腹を慰め、コーヒーパックに湯を落とす頃、イスラムの朝 5 時半からの礼拝を呼びかけるアザーンの音が、ゆっくり、朗々と響く。

イギリスから独立時、回教徒はパキスタンに、ヒンズー教徒は印度にと、数百万人の凄惨な殺戮の末に分かれたが、綺麗に分離出来ず。未だに多数派ヒンズーによる大量殺戮と少数派回教による報復テロが繰り返される。それは又、多数派ヒンズー内の階級矛盾を外に転化する手段でもある。都会ではハリジャン（不可触民）と同じ井戸の水を飲まない、彼らが作った物は食べないと言っても無理で、カーストによる差別はないが、田舎ではまだあると、教育を受け、日本語を話すガイド。

輪廻転生を信じ、殺生を忌み、菜食を旨とする者が神の名でイスラムを襲い、低カーストを人とも思わぬヒンズー。その矛盾にボンベイ生まれのアンベードカルは言論で、農村で育った義賊プーランは銃で挑む。差別の原因でもあり結果でもある人間の敵貧困に、教育を受けたアンベードカルは知恵で、プーランは暴力で立ち向かう。共に国政の場に立ち、仏教に改宗するが、片方は死んで仏となり、他方は銃で撃たれ死ぬ。輪廻転生や如何に？

(5) トイレ掃除のハンサムボーイ

デカン高原北西、アウランガバード北東百キロ、年間降水量 6 百ミリ、中国黄土高原を思わせる広大な乾いた大地に、深さ 7 百メートルのワグラー溪谷が出現する。断崖中腹に刻まれた寺院群がアジャンター遺跡だ。紀元前一世紀頃の前期窟（上座部仏教期）と紀元 5 世紀の後期窟（大乘仏教期）の人類の宝と言うべき壁画や彫刻の古代遺産。完成度が高く中央アジアや中、日の古代仏教絵画の源流とも言え、美しさで見ると人を圧倒する。

途中粗末なドライブインでトイレを借りる。ハンサムボーイがトイレ掃除。低カーस्टで掃除が生れ付きの職業、死ぬまで掃除し続ける。携帯で写真撮り、持参の富士フィルムの携帯プリンターPiViでプリントしてやると大喜び。ドライブインで昼食、子供を撮ってやると、ジャパニーズハイテクノロジー！と皆大喜び。特急列車やレストラン、観光地で携帯カメラとプリンターが日印友好に大活躍。観光地巡りのインド人は豊かでデジカメを持つが、庶民には手が届かず、その場でプリントアウトしてやると喜ばれる。最近ドコモがインドに進出、TATA Docomoの看板を見かける。日本のキャリアもメーカーも広い世界へ打って出て、優れた製品とサービスを世界中に提供、世界を“楽しい”して欲しい！

調子に乗ってあちこちで撮ってはプリントしてあげると、ガイドがきつい顔。日本ではお嬢さん綺麗ですね！と年頃の娘を褒めると親は喜ぶが、インドでは嫌がるんです。インドでも誰とでも仲良くなり、馴れ馴れしく写真を撮る📷にイエローカード。

(6) トイレから見る (B) R I C S・・・国民の生活が第一！


中国のトイレも酷いが、外国人の目に触れる所は少し改善されて来た。それでも見た限りでは、トイレ掃除専門カーストのいる印度に軍配が上がる。専門職として数千年の間研鑽を積ませているのだから！？インドのトイレにはバケツと手桶がおいてある。床と同じレベルの陶器の便器の穴の部分にお尻を落として用を足す。次に後ろから右手の手桶の水をお尻に掛け、左手でお尻を洗う、手動式ウォシュレット。更に手桶で汲んだ水でトイレを流す、手動式水洗トイレ。ホテル等は別として、これが一般的だ。この点でも中国よりもインドのトイレが清潔で衛生的だが、トイレの数自体が少ない。線路脇や野原、川縁も、トーモロコシ畑も、所構わずトイレと化す点では、中印共に似ている。

もっともアランガバード駅で一時間遅れの特急を待つ間、アップパークラスの待合室（階級が違えば永遠に交わることは多分ないのだ）のトイレで見てはいけない物を見てしまう。洋式水洗便器のロータンクが壊れ、成仏出来ない先住の黄金の蛇がトグロを巻いている。仕方なく私も屋上屋を重ね、金閣寺を作ってしまう。せめてもの情けの金隠しとして武富士を被せてやる。上だ下だ、階級が違えば井戸も一緒にできない、食事も同席しない、列車も、待合室も違うと言っても、所詮それぐらいのものなのか！笑ってしまう。

おまけに便座が酷く汚れていたもので、前座で武富士に便座を綺麗にしてもらおう。吐きそうになり、目から涙を出す武富士の活躍にもかかわらず、便座に無数の黒傷が残ったのは、洋式便器の便座に飛び乗って用を足すインド人が多いからか？ロシアツアーのクレムリンのトイレで、同じ経験をしたのを思い出す。国民の衛生生活をないがしろに、核保有の大国だと威張っても、所詮図体がでかく、腕力が強いだけのバーバリアンということか！？

(7) 成長し変わるインド

4日目はアランガバードから車で小一時間のエローラ遺跡へ。756年着工、完成に一世紀以上を要した。石山に掘られた石窟寺院は34。12窟までが仏教、29窟までがヒンズー教、34窟までがジャイナ教。とりわけ石山から浮き彫りされた16窟カイラーサーターナー寺院は巨大さと美しさで人を驚かせる。途中1187年にヤータバー朝の首都として築かれた後、イスラム王朝により占領が繰り返され、一時首都がデリーから移されたダウラターバードの美しいイスラム砦も遠望する。「宗教の国」らしくいくつもの宗教がひしめく。

宗教は人々の生活に深く根差し、内側で生死を支えるというが、神は人間が創ったものと考え、には現実の悲惨とそれを隠蔽する役割をしているように見える。

かつて旅したデリーには至る所に路上生活者がいて、白亜の豪邸の白く高い塀に立て掛けられたブルーシートのスラムとゴミを漁る人の群が延々と続き、車が信号で止まる度バクシーシー（喜捨を！）と手を差し出す物乞と物乞まがいの物売りが群がった。今ボンベイに路上生活者も、物乞、物売りまがいもない訳ではない。スラムもない訳ではないが、以前見たデリーに比べるとはるかに少ない。今のデリーはボンベイよりきれいで安全な街になったとガイド。相変わらず街は猥雑、混雑、清潔とは言えないが、人でありながら人として扱われない「人非人」と、人を人とも思わない、人さえ食ってしまう「人獣」の住む国。こんな国に自分は住めないと思ったものだが、確かに変わりつつあるようだ。

（８）デリーで乗り継ぎに手間取る

スラムも路上生活者も、物乞も少なくなつたと感心したが、飛び立つ機内から見下ろすと、ムンバイ空港をバラックのスラムが取り囲む。往路はデリー経由ムンバイ直行便、帰りはデリーで国内便から一人で乗り替え。初めてで不安だが、デリーで現地係員が待つからと外に出る。チェックしても僕の名前のプラカードを掲げる者はいない。国際線に乗るのだから国内線出口から出たのは不味かったと引き返そうにも、警備員が自動小銃を持って立つ。気持悪いがチケットを見せてどこに行けばいいか聞くが、不得要領。「地球の歩き方」にはトラブってもお巡りより他のツーリストに助けを求めた方がいいとあり、ガイドが特急の座席を確保するのに袖の下使ったと嘆いてたことと重ね、反省。

取り敢えず警備員の指示する方向に相談デスクがあり、荷物を受け取るよう指示される。トランクはムンバイから成田直行と思っていたが、再度チェックインすることに。滑走路側に国際線ターミナル行きのバス乗場を見つけて乗り、ようやくチェックイン。デリーの現地係員とは会わず仕舞。デリー空港で **GingerBeer** の名前につられ耐ハイ風ノンアルコールビールを飲み一息。印度は飲んべえには不自由な国だ。

（９）アンベードカルとブッダ、マルクス

アンベードカルは以下のように説く。

「ブッダとカール・マルクスの目標は結局同じものである。マルクスは私有財産が搾取や苦悩や人間の奴隷化を招き、人間の苦しみの根だと言った。ブッダもまた苦悩の根絶を希った。仏教的な言葉で表される苦悩は所有物の意味で用いられる。ブッダによれば一切は死滅するものであり、所有を求める争いは無意味である。僧侶は私有財産を持つことを許されない。ブッダは彼の宗教を神や靈魂にその基盤をおいていない。もし私有財産否定の原理が社会に当てはめられたとしても、ブッダはそれに反対することはないであろう。

しかし、仏教と Kommunismus の大きな違いはその目標に達する手段である。Communismus は暴力によってそれを一挙に覆そうとするが、仏教は非暴力によって、長い時間はかかるが、一番確かな方法で到達しようとする。世界は人間の心の改革が行われな限り真に変革されえない。更に仏教的システムは民主主義的であり、現在の Kommunismus は一党独裁の専制主義である。仏教的方法こそ最も安全で健全な道である。また仏教徒は仏教の教えを広めるためにクリスチャンたちがやっているような方法を見習う必要がある」と。

マルクスについてのアンベードカルの考えは、彼の生きた時代の色を濃く反映している。第一次世界大戦の戦火の中で生まれたソビエト社会主義連邦は、干渉戦争に勝利し経済を再建するため、戦時共産主義のネップとしてレーニンの手でスタートさせられ、計画経済とプロレタリアート独裁国家としてスターリンによって完成させられた。レーニンが生きて反革命干渉戦争に勝利していたら、違った社会主義が華開いていたかも知れない。従ってアンベードカルが批判しているのはスターリンであってマルクスではない。マルクスとスターリンは全く相容れない。人はいつも時代の子なのだ。今こそアンベードカルの評価するマルクスに立ち返ることが必要ではないか？

◎青海原進む一艘の白い帆船のように

我が家は晴海客船埠頭が目の前、時々客船が華麗な姿を見せてくれる。朝目を覚ますと、4本マストの白い帆船が優美な姿を横たえる。海洋大の練習船日本丸？か。

大盛況だった90回目の三鷹クラブ講演会で舩添要一君（S42年入寮）も、自分たちの若い頃は海外に行きたい！行ってやろう！という意識が強かったけど、今の若者は出たがらなくと嘆いていた。ただ我々の時代は好奇心の他に欧米先進国に対する憧れもあった。欧米が必ずしも先進国ではなく、憧れでもなくなった今の日本の若者にとって、「先進国」への憧れに代わる何かが必要ではないか？帆一杯に風受け、青い海原を進む白い帆船のそれに似た、千万人と言えども我行かん！という気概と、より広い人間観、連帯の視点が。舩添君も荒海に帆を揚げた。日本の改革と世界との連帯のために、頑張っただけで欲しい！

◎事務所コンパに22人！事務所広くしなくちゃ！？

5月の連休の頭、29日の祝日はスキー、1日はムンバイへの旅立ちという忙しい日程の合間を縫い、4月30日、寮生諸君と事務所でコンパ。若いOBも含めこれまで、最高の22人が集合。折り畳み椅子でも足りず、ベランダの椅子まで動員してどうにか着席。

ホストは他にS42年入寮の中村英君と43年の井上豊君。エクアドル、エルサルバドル、エジプト、中、韓、シンガポール、オーストラリアからの留学生も参加、10時半過ぎまで国際色豊かに盛り上がる。これを機会に交流を深め、ネットワークを広げ、切磋琢磨、社会有為の人材に成長して貰えると嬉しい。以下が若い参加者。

岡本和也（2006年入学・理I・工学部/計数工・岡崎高校）、山口和晃（2010年・理II・盛岡第一）、星野彰太郎（2010年・理II・宇都宮短期大学附属）、石田翔太郎（2010年・理I・尾道北）、王先（2008年・理I・工学部/計数工・暁星国際）、田部淳ウィリアム（2009年・文I・仙台第二）、宮本洋之（2008年・文I・法/政治・洛南）、工藤駿（2009年・文I・盛岡第三）、ウオリス暁音（2009年・理II・前橋女子）、辻本直人（2010年、理I・小樽潮陵）、大槻美貴（2010年・文I・仙台育英）田中聖也（2010年・文I・東大寺学園）、栗原大輔（2010年、理II・大阪教育大附属天王寺）、三野功晴（1994年・文III・六甲）、チカス・ガブリエル（2009年・理I・エハサル・リール共和国）、シー・ロンチュン（2009年・理I・シンガポール）、Fiona Mccandless（2009年、AIKOM）Shahenda（2009・AIKOM）、CHOO YISHA（チュウ・イシャ・2009年・AIKOM・シンガポール）。

◎変貌する中国・・・東大三鷹クラブ第91回定例懇談会のご案内

2月11日の日経新聞の経済教室欄に、「中国への省エネ・環境協力」と題して日中経済協会理事長の清川佑二君（S36年入寮）の提言が掲載された。いつものながらの明解、冷静な分析と提言に感服しながら読んだ。以前から「企業改革へのCSR実践論」等の著書、雑誌等への寄稿文、講演会録等を贈って戴きその都度仕事上も大いに参考にさせていただいてきた。今回の講演は、難解な今後の日中関係を考えていく上で、実にタイムリーだ。

清川君との出会いは昭和36年に東寮に入寮してまもなくである。彼は原田委員会の食堂委員となり委員会室に入り、私は真上の13号室だった。13、14号室は先輩、同輩共に明朗な人物が多く、飲んで良く議論した。そこへ下の階から清川、長尾といったこれまた明るくて議論好きの面々が、聞きつけたか酒のにおいを嗅ぎつけたか加わって輪が広がった。彼は浜松の大商家の次男坊で厳格な家庭に育った。早くに父親を亡くし母親の手で育てられ、商家の気風の中で成長し、故郷の気候風土も似ていたという共通点があっただけで打ち解けた仲となった。男気があり、冷静・沈着・努力家という印象を強く持った。彼は1年で寮を出たがその後も行き来した。私が寮委員長時代、学業を疎かにしているのを聞きつけて、2年後期に入ると法律相談所への入所を勧誘された。その後、卒業するまで相談所の運営・ゼミ、図書館通い、遊びごと等、行動を共にすることが多かった。寮時代の仲間6人での現在の夫人同伴の会に繋がっている。最初の三鷹クラブの名簿も、彼を通して声がかかったのでこの仲間を中心に大騒ぎしながら作成したのも楽しい思い出。

彼は、法学部を卒業、昭和40年に初志貫徹第一志望の通産省に入省、鉦山保安局を振り出しにナイジェリア、サンフランシスコでの外国勤務もして商務流通審議官、基礎産業局長、特許庁長官を歴任。通産省の仕事の性質からか、円高、構造不況、対米貿易交渉等でも産業界の実態、企業人の感情を理解してくれていてありがたかった。退官後は海外経済協力基金理事を経て東芝に入社、専務としてCSR本部長、渉外・輸出管理等を担当した。この間難局にも遭遇し、その経験に基づく理論・教訓を前述の著書にまとめている。平成19年10月に現職に就任し、中国と日本との架け橋として忙しく往来している。中国では各地を訪問し、また中国の「新幹線」にもずいぶん搭乗体験があるようである。

これだけの広範囲な経歴を持ち、しかも交友関係も広く、実務・実情にも通じている清川君の講演であるので、掲題に限らず当面する様々な課題に対する見解、広く新しい見聞を聞けるものと楽しみにしている次第である。 (昭和36年入寮 渡邊昌治 記)

日時：平成22年7月9日（金） 18時30分～21時（開場18時）

場所：学会館本館203号室（千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み）

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎最後に・・庄野真代さん、国境なき楽団、そして・・

マニラ、ペナンと楽器を持って一緒に恵まれない子供達の施設を訪問した、NPO法人国境なき楽団の庄野真代さんがその活動の経験を国政に活かすため、今回の参議院選に立候補するという。同志🐬として、取敢えず彼女の活動の告知を同封することで、連帯の意思を表明したい。皆さんの応援をお願いします。🐬メール夏のプレゼントの当選は封筒の表の番号下二桁10番の方です。故郷の白神の味をお楽しみ下さい。再見！